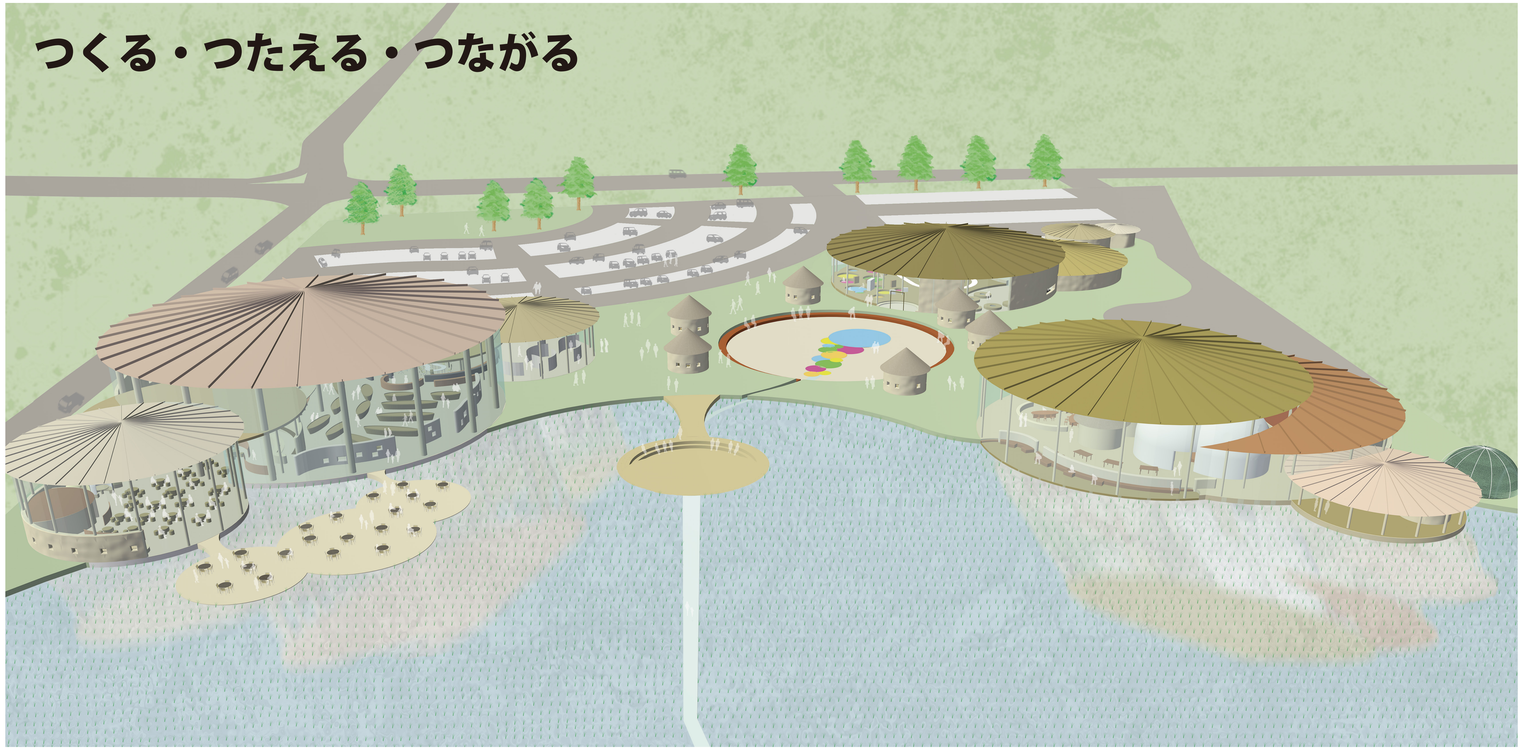
13

文化デザイナー学院　3年　羽根坂　知佳

「つくる・つたえる・つながる」



つくる・つたえる・つながる



こんせぷと

この道の駅では「ふれあい」と「つながり」に着目し、人と人、人と地域がつながることで文化をつくる道の駅を提案する。

敷地内の田んぼでは、時期に合わせて昔ながらの稲作体験が行える。
刈り終えた稲を使って、みんなで道の駅に飾るカカシや、オリジナルの藁細工をつくることもできる。

道の駅としての機能に加えて、体験やイベントを通して、楽しい思い出作りができる場所を目指した。

ストローベイルを使った道の駅

現在、建築業界では、環境に配慮した自然素材を使ったエコロジカルな建築の普及が求められている。この道の駅は、ストローベイル (今回は稲藁のブロック) を用いて建設する。

ストローベイルとは、農業の副産物、地産地消でできる数少ない植物系の断熱材であり、運搬や廃棄によるエネルギーや二酸化炭素排出量が削減できるなど環境負荷が少ない。

断熱効果や仕上がりの美しさ、素人も楽しく施工に参加できる利点がある。

思い出作りは建てる前から始まる

ストローベイルを使った建築を、地域の方や県内外の建築に興味のある方を募り、「那珂市　道の駅建設ワークショップ」を開催する。



道の駅をレンタルする

敷地内の6つの小屋はレンタルスペースとして利用する。
ーからお店を出すにはまだ勇気が出ない…。
趣味でつくったものを販売・展示してみたい…。

宣伝ノウハウ、知名度がなくても、人が集まる道の駅だからこそ、はじめの一歩として気軽に利用してみてほしい。

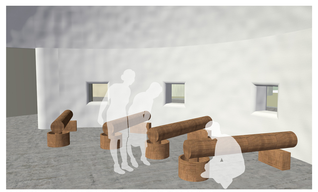
市 / 県内外からのお試し出店は、那珂市の関係人口を増やすきっかけにもなり、期間によってお店が変わることで、お客さんの楽しみにもつながる。

お米の七変化

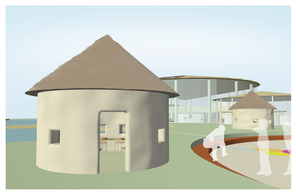
この道の駅では、お米を最大限に味わい楽しめる。
料理スタジオでは、かまどを使った炊き立てのご飯、
囲炉裏でつくる、お団子や手焼きせんべい。
枠と臼でつくったつきたてのお餅。
外で豪快につくるポン菓子…。



お米からバリエーション豊かな加工食品をつくる体験ができる。新鮮な食材と組み合わせれば、楽しみ方は無限大。
直売所では、お米からつくられた加工品の販売を行い、那珂市の地産地消に貢献する。



▲昔ながらの精米方法を体験できる。手間がかかるからこそ、出来上がったお米の味は格別。



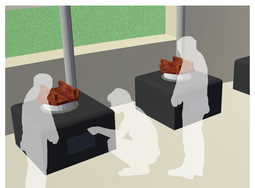
▲レンタル小屋外観。ほっこりするフォルムがかわいい。



▲土壁がやわらかく包む空間。こどもまりとした室内はワーキングスペースとしても使いやすい。



▲キッチン設備が揃ったレンタル小屋では、手軽に出店することができる。



▲収穫し、精米したお米を直接で炊くことができる。燃料は収穫した藁も使用。完璧時などには、炊き出しなどにも利用。



配置・平面計画

円を用いて計画をし、どこからでも田んぼが見えやすいつくりとした。
建物には、体験エリアと休憩エリアをまぜこむことで、それぞれの建物内で体験を楽しみながらも、のんびりとすごせる。

ステージとテラスは田んぼに囲まれ、水面に浮かんでいるように感じることができる。
道の駅の中心は、公園のように気軽に人が集まれるよう、砂の広場と池、その周りは座れるベンチをつくる。

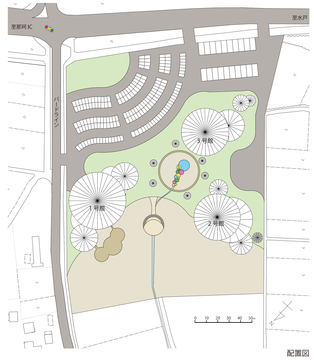
一般車両と大型車、従業員駐車場への動線が分けられるよう、3 つの入口を設けた。敷地に面している 2 つの道路からも入りやすい。

ダイヤグラム



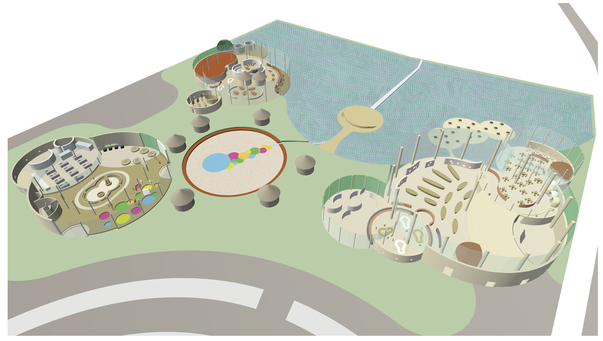
観光案内所には、那珂市の観光地を巡ってもらうきっかけ作りとして、那珂市の魅力が伝わる写真を募集し、写真コンテストを開催する。お客さんが投票を行い、受賞者には賞品 (地域の特産品など) を授与する。

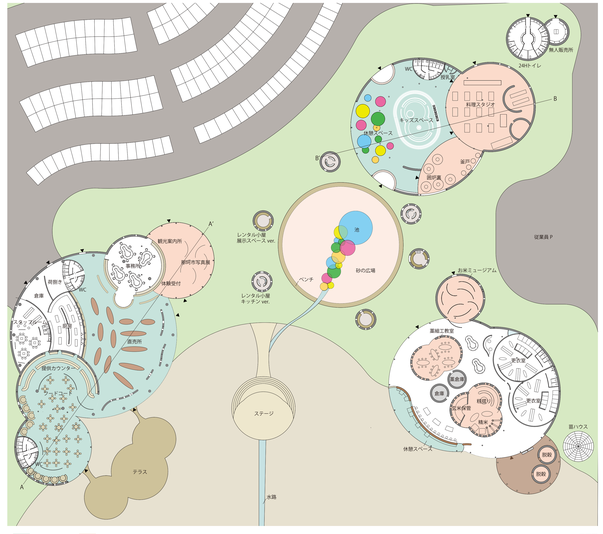
お米ミュージアムでは、お米が食卓に届くまでの工程を紹介する。昔使われていた農機具を展示し、稲作の歴史を体感することができる。
お米を中心とした日本の食文化の大切さを多くの消費者に知ってもらうため、食に関する企画展示のほか、お米と美容、健康へのつながりをタッチパネルやゲームを用いて楽しみながら学べる。



立面計画

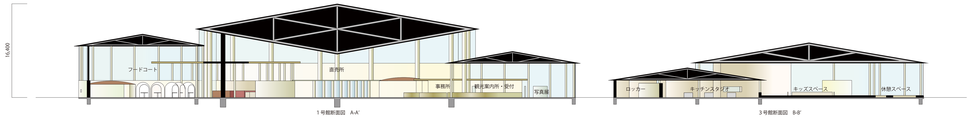
平面の丸に合わせて屋根をかけ、屋根が重なるように高低差をつけた。屋根が突き出ていたり、中に入り込んだりしていることによって、空間に変化がうまれる。圧迫感を感じないように、広い空間に合わせて天井高を最低 3m、最高 12m とした。外壁は最高 6m までとし、そこから上はガラス張りにすることにより、建物の印象を軽くした。遠くから見ると、屋根が浮いているように見えるのが特徴。





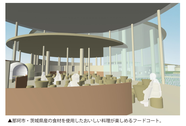
平面図

休憩エリア　体験・情報エリア

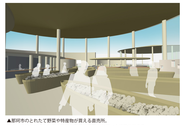


1 号館断面図　A-A'

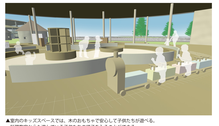
3 号館断面図　B-B'



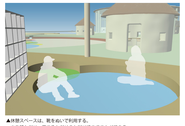
▲那珂市・茨城県産の食材を使用したおいしい料理が楽しめるフードコート。
ガラス張りで開放的な室内。重なる屋根がアクセントとなる。



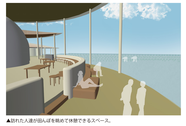
▲那珂市のとれたて野菜や特産物が買える直売所。
オープンキッチンからは新鮮な野菜の調理されていく様子が見える。



▲室内のキッズスペースでは、木のおもちゃで安心して子供たちが遊べる。
料理教室から通いている子供たちの様子をみることができる。



▲休憩スペースは、寝ころがりながら利用する。
本を読んだり、寝ころんだりのんびり過ごすことができる。



▲設けた人通り沿いより本格的で本格できるスペース。
薪を使ったソファーはふわふわで気持ちがいい。





